

上にあると思います。何不自由なく育ててくれた両親に、日々感謝し努力していききたいです。

最後に、10年後、20年後の自分を想像するのはとても難しいですが、「過去」は振り返っていいと思います。今まで私が学んできたことは、過去を後悔しても戻ってこないということ。それなら私は、前を向いて、過去にあったことは自分に必要であり、正しいことだと思いつながら生きていこうと決めました。

これが私の新成人の主張であり、これから始まる新たな人生の抱負といたします。



柔道が教えてくれたもの



柿内沙弥香

私に柔道との出会いを与え

てくれたのは、「はっけよい、残った、残った」で始まる「いの町相撲大会」でした。

私は、相撲大会で勝ちたいがために柔道を始めました。そのころは稽古をすればするほど、自分が強くなっていくのを実感できました。自分より大きい相手を投げた時の、何とも言えない満足感と喜びを味わいました。のめり込むように柔道が好きになっていきました。

小学6年の柔道強化合宿で、一緒に稽古をしていた中学生が全国大会で優勝して帰って来ました。新聞やスポーツニュースのインタビューなどを見るにつけ、「私も同じ学校で柔道をやりたい」と熱望するようになっていました。両親や周囲の人を説得して、南国市の香長中へ入学させてもらいました。

入学して間もなく、私は「全国優勝」を目指すには、想像できないほどの苦しいトレーニングや稽古を積まないと成しえないことに気づかされました。憧れだけでは稽古にもついていきません。早く

も柔道を辞めたいと思っていました。また、何より周りの稽古相手と自分との実力が違い過ぎて、自分は稽古の相手にすらなれませんでした。

その上、早朝からのトレーニングのために毎朝5時起床、始発のJRに乗りながら、厳しい稽古・慣れない環境へのストレスや苦しさで、いつも泣きながら学校へ向かいました。

柔道を辞めることはいつでもできました。しかし、私のたつての希望で入学したのは、苦しいからと逃げるのではなく、いつまでも成長できないと思い直しました。苦しい時ほど自分の殻を破らないといけないと、自分自身を奮立たせてぶつかりました。諦めずに我慢と努力を続けた結果、全国大会に出場でき良い成績を収められました。辞めずに続けていたからこそだと嬉しかったです。

高校では、中学校で培った精神力と忍耐力を土台に、目標としていた「全国優勝」をインターハイという最高の舞台で迎えることができました。

た。嘘のような結果に素直に大喜びしました。ひとつのこを継続していたからこそ、この結果にたどりつけたと思います。そして、私に柔道を体験させてくれた家族や応援してくださった方々に感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。

私を全国大会で勝てるまでご指導してくださった川崎章正先生・寛藤次男先生は、いつも私にこんな助言をしてくださいました。

「柔道ができる環境は当たり前ではない、支えてくれる人が居るからこそできる、だから周りの人に感謝する心を忘れてはいけない。」と。それに柔道以外の場でも常に感謝の心を持つことが大切だとも教えてくださいました。

また、柔道だけを頑張るのではなく、日ごろの生活態度・学習にしても誰に見られても恥ずかしくないように、とも教えられました。後輩のお手本になると同時に、自分自身の行いを振り返ることです。このようにお二人の先生か

ら、貴重なことを学びました。さらに、柔道を通し、物事を客観的に考えることができ、苦境にたつた時の感情コントロールもできるようになりました。目標を常に掲げることや何事にも意識して行動できるようにになりました。

道を切り開くのは自分自身です。自ら行動を起こさないと前進できません。初めから諦めていては目標は達成できません。挑戦し続ける気持ち

が大切なのだと思います。20歳になった私の目標は、残りの大学生活を悔いすることのないように全力を出し切ることです。納得のいく卒業を迎えることです。柔道で頑張るのはもちろんですが、学業にも柔道にも精神面でも、地道な積み重ねを大事にする日々を送りたいと思います。

そして、将来は高知に帰って、保健体育の教師となり、柔道で体得してきたことを心に生徒たちと過ごしたいと思っています。そのためにも、目の前のことを頑張り続けたいです。